



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

10月号—No.305

2020.9.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【蒼色(そうしょく)】干した青草のような沈んだ青緑色。

「+」(クサカムリ)に「倉」という漢字の成り立ちからもわかるように、倉の屋根を葺いた沈んだ青草が色名の由来。「蒼」は「あお」とも読み、青、碧と同様にブルーを表すこともあるが、伝統色として用いるときはあくまでグリーン。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」の取り組みについて

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ大分セッション中止およびオンライン研修実施のお知らせ / 令和2(2020)年度「地域創造セミナー」事業がスタート / 令和元(2019)年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

今月の情報..... 5

地域通信 / アーツセンター情報

制作基礎知識シリーズ Vol.46..... 10

オンライン配信の基礎

今月のレポート..... 12

滋賀県大津市 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ導入プログラム)」

アウトリーチの実施ポイントを整理

令和2(2020)年度 公共ホール 音楽活性化事業の 取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)も大きな影響を受けています。おんかつでは、演奏家が小学校や福祉施設などに出掛けるアウトリーチを長年にわたって推進してきました。しかし、音楽室などで演奏家と身近に触れ合う体験型のアクティビティを大切にしているアウトリーチでは、感染症に対してこれまでにない注意が求められています。こうした事態を踏まえ、地域創造ではアウトリーチの環境づくりで注意すべきポイントなどを整理しました。音楽事業を統括する児玉真プロデューサーにその経緯や意図について聞きました。

——感染症拡大によるおんかつへの影響

4月20日～22日に開催する予定だった今年度のおんかつ導入プログラムの実施団体向け全体研修会(2020・2021年度登録アーティスト6組によるプレゼンテーションあり)を4月初旬に中止すると発表。また、5月25日、26日に予定していた地域創造フェスティバル(おんかつ支援登録アーティスト約50組のプレゼンテーションを予定)も中止することになりました。

その代替策として、導入プログラム、支援プログラムともに演奏家に映像資料を作成してもらい、実施団体に向けて配布しました。また、地域創造では6月におんかつを含めた今年度事業の関係団体に対して意向調査を行いました。その結果、導入プログラムは14団体中6団体、支援プログラムは28団体中21団体が年度内に実施する予定で準備しています(9月末現在)。

——アウトリーチの実施ポイントを整理

おんかつは演奏家が学校などに出掛け、コミュニティとどう向き合うか、どうコミュニケーションするかという交流を大切に考えているプログラムです。新型コロナウイルスの特性を考えるとハードルがありますが、だからと言って簡単に止めればいいのかというものではない。長期的に見れば、音楽にしても他の芸術にしても、人の創造力や暮らしにとって絶対に必要な

ものです。今回のような事態でも再開できるようなきっかけ、考え方を示すべきではないかとみんなで話し合いました。

演奏会については、クラシック音楽公演運営推進協議会が「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を6月11日に策定していますが、アウトリーチについての注意事項をまとめたものはありませんでした。すでに地元の演奏家が学校に出掛けている地域もありましたが、どこの現場も手がかりになるものがなくて困っていました。

実施場所が多種多様な上に、感染状況が異なる自治体、主催者であるホール、演奏家、受け入れ先の学校などさまざまな関係者が関わるアウトリーチでは、条件が一定ではないためガイドラインという形にまとめることは不可能に近いです。そこで、おんかつ導入プログラムの現場を想定し、通常の感染拡大予防策(検温、アルコール消毒など)に加え、アクティビティの環境をつくる上で注意すべきポイント(右表参照)と、プログラムづくりでアーティストが注意すべきポイント(右下段囲み)をコーディネーターたちと整理しました。

どういうことを考えてアウトリーチを組み立てればいいのか、個別研修(下見)の時にどんなことを確認しなければいけないのか、本番よりもリスクが高まると指摘されている控え室などのバックステージで留意することは何か、連絡網は確認したか、アウトリーチの演出で演奏家が留意することはあるか、など。おんかつ導入プログラム向けに整理したポイントですが、これを土台にして、各地で工夫をしていただければと思っています。

どんな事態になったとしても、演奏家が音楽で伝えたいことには変わりはありません。これまでおんかつで培ってきたプログラムや演出ができなかったとしても、新たな創意が生まれてくることを信じています。関係者が同じスタートラインに立ち、改めて子どもたちやコミュニティのために音楽で何ができるかを考える機会にもなると思っています。

●令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業」(導入プログラム)参加団体
(※9月末現在)

北海道大空町(大空町教育文化会館)
岩手県釜石市(釜石市民ホールTETTO)
岩手県奥州市(前沢ふれあいセンター)
山形県長井市(長井市民文化会館)
滋賀県長浜市(木之本スティックホール)
広島県府中市(府中市文化センター)

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 山之内・菅
Tel. 03-5573-4078・4069

● アクティビティの環境づくりで注意すべきポイント

おんかつ導入プログラム関係者は、政府や所在する地方公共団体からの指示や要請、実施会場である公共ホールのガイドライン等を遵守することを原則とし、アクティビティにおいては、各アクティビティ先の方針や要望を踏まえ、関係者間で協議してアクティビティを実施します。併せて、このチェックポイントを参考に事業に取り組みます。

段階	チェックポイント
現地下見及びその前段階	<p>① 会場の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティビティ会場及び控室は、人と人との間隔を確保(最低1m できるだけ2m)できるスペースがあるか確認する。 アクティビティ会場はマイク等の機材が利用可能か確認する。 体調不良者を隔離できる場所及び誘導経路を確認する。 <p>② 換気作業の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分な換気ができるよう、アクティビティ会場及び控室の窓やドア等の位置、換気方法を確認する。 リハーサル及び本番時の換気のタイミングについて協議する。 <p>③ 飛沫飛散防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> マスク・フェイスシールド・マウスシールド等を原則着用する。困難な場合は他の飛沫飛散防止対策を検討する。 アーティストとアクティビティ参加者最前列までの距離を充分確保できるか確認する。 <p>④ 緊急連絡先等の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 万が一感染者が発生した場合に備え、アクティビティ先の代表者はアクティビティ参加者の緊急連絡先を把握すること。また、それらの個人情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供することをアクティビティ参加者に説明し了承を得ること。 緊急時に連絡がとれる地元の医師がいるか確認する。 <p>⑤ 中止の判断にかかる協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 本番実施前に関係者で体調不良を訴える者が出た場合の連絡体制及び中止の判断について協議する。 <p>⑥ 情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体からの指示や要請、実施会場である公共ホールのガイドライン、アクティビティ先及びアーティストの所属マネジメントの方針や要望を把握し、情報共有する。
本番当日	<p>① 出発前の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 当日の朝、出発前に検温し、体調に異変がないか確認する。異変があった場合は速やかに報告する。 <p>② 換気作業</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティビティ会場及び控室の十分な換気を行う。 <p>③ 会場設営</p> <ul style="list-style-type: none"> 本番実施前及び撤収時に、アクティビティ会場及び控室の人の手が触れる箇所を重点的に消毒する。 アクティビティ参加者同士が密接しないように座席を配置する。座席が無い場合は座る場所に目印をつける。 アクティビティ会場の入口に消毒液を設置する。 アクティビティ会場の入口で非接触型の体温計などでアクティビティ参加者に検温できるよう用意しておく。 マスクを着用していないアクティビティ参加者に配布できるよう、十分な枚数のマスクを用意しておく。 <p>④ 備品の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 備品(ピアノを含む)に触れる前、触れた後は手指消毒を行う。 譜面台やマイク等の備品に不特定多数の人が触れることを避けるため、あらかじめそれらを扱う人を決めておく。 本番実施前及び撤収時に、使用した備品を消毒する。 <p>⑤ アクティビティ参加者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 全てのアクティビティ参加者にマスクを着用するよう依頼する。 アクティビティ参加者が会場に入場(退場)する際に混雑状態とならないよう誘導する。 <p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミはアクティビティ先で廃棄せず、すべて持ち帰る。 控室では出来る限り飲食を控える。やむを得ず飲食する場合は、時間をずらす、対面しないように着席する等、感染予防策を徹底する。

● アクティビティのプログラムづくりでアーティストが注意すべきポイント

- アクティビティ参加者との接触を伴う演出は避ける。
- アクティビティ参加者が小道具等を使い回す(不特定多数の人が触る)演出は避ける。
- アクティビティ参加者が密集、密接するような演出は避ける。
- アクティビティ参加者が大声を出すような演出は避ける。
- 飛沫飛散防止対策として、アクティビティ実施時は原則としてマスクを着用するとともに、アクティビティ参加者との距離を充分確保する。
- アクティビティ先に事前に説明できるよう、アクティビティ実施10日前までにプログラム概要を提出する。
- コーディネーター、実施団体、地域創造とよく相談しながらプログラムづくりを行う。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●ステージラボ大分セッション中止およびオンライン研修実施のお知らせ

地域創造では、例年、公立文化施設等の職員を対象に、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業「ステージラボ」を行っています。令和2(2020)年度は、2021年2月に大分県のiichiko総合文化センターにて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら中止を決定いたしました。参加をご検討い

ただいていた皆様には誠に申し訳ございません。

なお、今年度の研修事業として、オンラインで参加いただける研修の実施を検討しています。実施日程(2021年2月頃予定)や研修内容などの詳細、参加者募集は、今後、地域創造レターおよびホームページでお知らせします。

※令和3(2021)年度のステージラボは、後期セッション(2022年2月)のみ開催予定です。

●令和2(2020)年度「地域創造セミナー」事業がスタート

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりおよび芸術文化関係者の広域的な連携強化を目的として、都道府県が主催する研修会に対し、地域創造が講師を派遣する地域創造セミナー事業。今年度は山梨県からスタートしました。

山梨県の地域創造セミナー(セミナー名:山梨県文化芸術セミナー)では、東京大学大学院人文社会系研究科教授の小林真理氏に「新しい文化振興のあり方と方法～文化の価値を再認識する」をテーマに講演いただきました。当初は山梨県内の会場において実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンラインでの実施となりました。

文化を支える諸制度、文化の発展を阻害する制度を研究されている小林氏から、近年の文化政策の動向や文化芸術振興のこれまで・これから、それぞれの自治体でできる文化振興を中心に講話いただきました。講演後にはAIR(アーティスト・イン・レジデンス)への取り組みについて質

問が出るなど、文化振興に地方自治体はどのように取り組むべきかといった課題について参加者の関心を集めていました。併せて、市町村等で活用いただける地域創造の事業の紹介も行ったところです。

令和3(2021)年度地域創造セミナー事業については今後募集予定ですが、コロナ禍の状況を踏まえオンラインでの実施も可能ですので、事業実施をぜひご検討ください。



山梨県文化芸術セミナーの様子

●令和元(2019)年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

令和元年度各事業報告書をホームページで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

●「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」

<https://www.jafra.or.jp/about/report.html>

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹

介のほか、地域創造レターや雑誌「地域創造」、調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の申請書や様式をダウンロードすることができます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひご活用ください。

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川
Tel. 03-5573-4183

●「地域創造セミナー」に関する問い合わせ
芸術環境部 崎山・児島
Tel. 03-5573-4066

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2020年12月号情報締切

10月30日(金)

●2020年12月号掲載対象情報

2020年12月～21年3月に開催もしくは募集されるもの

●北海道・東北

●札幌市

札幌市教育文化会館
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目
Tel. 011-271-5822 川島花海
<https://www.kyobun.org/>

●教文たまたまばこ

多くの主催事業が中止となっていることから、オンラインを活用した自宅で気軽に楽しめるイベントを開催。ダンスワークショップ講師を招いたオンライントークや能楽をテーマにした塗り絵、自宅で体験する新喜劇など、これまで発信してきた幅広いジャンルを詰め込んだ「たまたまばこ」として公開。今後も文楽の人形遣いへのインタビュー配信など、さまざまなコンテンツを展開する。
[公開期間] 7月3日～
[URL] https://www.kyobun.org/news_detail.php?id=531

●北海道釧路市

北海道立釧路芸術館
〒085-0017 釧路市幸町4-1-5
Tel. 0154-23-2381 井内佳津恵
<http://www.kushiro-artmu.jp/>

●没後20年毛綱毅曠の建築脳

釧路市生まれの建築家・毛綱毅曠(もつな・きこう)の没後20年を前に、建築に込めた思いや哲学を振り返る企画展。ドローイングなど、毛綱による絵画作品を集め、設計の根底にある思想に迫る「宇宙」のほか、「建築」「人間」の3部構成で、図面や写真、関連資料を紹介。関連企画「トーク&ウォーク」では、釧路キャッ



展示室風景(釧路工業高等専門学校3年生の観覧風景)

スルホテルや釧路フィッシャーマンズワーフMOOなどの毛綱建築を実際に歩いて回る予定。
[日程] 7月18日～10月11日
[会場] 北海道立釧路芸術館

●山形県東根市

東根市公益文化施設まなびあテラス 東根市美術館
〒999-3730 東根市中央南1-7-3
Tel. 0237-53-0229 渡部真紀
<http://www.manabiaterace.jp>

●テラフルニワシテ カイテユク 赤塚豊子と華雪

1972年に25歳で夭折した山形県天童市の詩人・赤塚豊子は小児麻痺で手足の自由を失いながら、タイプライターで66編の作品を遺した。本展では書家・華雪(かせつ)が豊子ゆかりの土地を訪ね、その遺稿とのコラボレーションを試みた作品を展示。また、期間中、4日に1点のペースで東京在住の華雪から封書で届けられた「山」という一文字を順次展示し、山の遠望を表していく。
[日程] 9月12日～11月8日
[会場] 東根市公益文化施設まなびあテラス 特別展示室

●関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 後藤桜子
<https://www.arttowermito.or.jp/gallery/>

●道草展:未知とともに歩む

国内外で活躍する6組のアーティストの作品を通して、人間と環境の繋がりを考える展覧会。ドローイングや写真、映像、インスタレーションなどさまざまな表現による作品約40点が展示される。異常気象や大気汚染など自然環境に関するだけでなく、支配構造や社会的不公平といった「第二の自然」としての人間社会における矛盾やねじれに対す

る批判的な視点も映し出す。
[日程] 8月29日～11月8日
[会場] 水戸芸術館 現代美術ギャラリー

●茨城県ひたちなか市

ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
〒312-0056 ひたちなか市青葉町1-1
Tel. 029-275-1122 椿佳久
<https://hitachinaka-culturehall.jp>

●音楽見本市 第30回記念コンサート

プロのアーティストの生演奏を間近に、そして気軽に楽しんでもらうことを目的として、年4回開催しているロビーコンサート。第30回記念コンサートでは、地元出身の若手アーティスト(皆神陽太(ファゴット)、荒木奏美(オーボエ)、鈴木菜月(フルート))が出演。通常は大ホールのホワイエで実施しているが、今回は会場を小ホールに設定、市民に馴染みのあるプログラムをお届けする。
[日程] 10月25日
[会場] ひたちなか市文化会館

●栃木県足利市

足利市立美術館
〒326-0814 足利市通2-14-7
Tel. 0284-43-3131 篠原誠司
<http://www.watw.ne.jp/~ashi-bi/>

●瞬く皮膚、死から発光する生

世界的災禍に見舞われ、従来の死生観が根底から問われている現在、命のさまざまなあり方を伝える芸術がより強く求められている。こうした状況の中、「皮膚」をテーマに8名の現代写真家が命やその輝きに迫った作品100点以上を展示、「命」とは何かを考える。写真家たちの年代・表現方法はさまざまで、現代写真の世界を俯瞰できる展示にもなっている。
[日程] 8月25日～11月3日
[会場] 足利市立美術館

●埼玉県富士見市

キラリ財団

〒354-0021 富士見市大字鶴馬1803-1

Tel. 049-268-7788 平田春花

<http://www.kirari-fujimi.com/>

キラリ☆かげき団第14回公演 『にぎやかな夢～風の中、ひなげしたちの歌』

2006年に市民公募により結成されたキラリ☆かげき団のオペラ公演。オペラシアターこんにゃく座による全面協力と指導の下、毎年公演の開催を目指している。今回はコロナウイルス感染拡大の影響により、3月から延期となっていた本公演を、千鳥配席などの感染症対策を講じて開催。萩京子やモーツァルト、クルト・ワイルの音楽が神出鬼没に飛び交い、オペラの名シーンのヒットパレードや、林光の『ひのきとひなげし』などが披露される。

[日程] 10月10日、11日

[会場] 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

●埼玉県草加市

草加市文化協会

〒340-0013 草加市松江1-1-5

Tel. 048-931-9325 手塚雪香

<https://soka-bunka.jp>

日本の響…草加の陣2020 【代替公演】

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、2016年から実施してきた邦楽コンサート。5回目を迎える今年が、シリーズのファイナル公演となる。太鼓芸能集団 鼓童や民謡歌手の伊藤多喜雄、女流義太夫の竹本駒之助らが出演。司会者による解説で、楽器や楽曲についての知識を深めつつ、国内外で活躍する邦楽・和楽器アーティストの演奏を楽しむことができる。

[日程] 10月3日

[会場] 草加市文化会館

●東京都三鷹市

三鷹市スポーツと文化財団

〒181-0012 三鷹市上連雀6-12-14

Tel. 0422-47-9100 森元隆樹

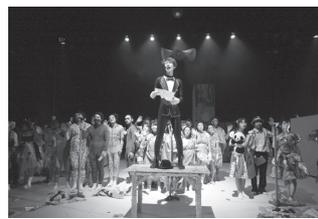
<https://mitaka-sportsandculture.or.jp/geibun/>

CHAiroidPLIN(チャイロイプリン)踊る戯曲『三文オペラ』

2015年のMITAKA“Next”Selectionにて創作されたチャイロイプリンの音楽劇『三文オペラ』を5年ぶりに再演。主宰のスズキ拓朗によりダンス×演劇の新境地を開拓し続ける劇団が、「時々自動」の音楽とともに作り上げるエネルギッシュな祝祭劇で、前回からさらにブラッシュアップされた構成やダンスシーンのほか、歌や映像、舞台美術など見どころ満載の作品となる。

[日程] 10月17日～25日

[会場] 三鷹市芸術文化センター星のホール



『三文オペラ』(2015年10月/三鷹市芸術文化センター星のホール) 撮影: 福井理文

●横浜市ほか

神奈川県民ホール

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

Tel. 045-633-3721 川上綾夏

<https://www.kanagawa-kenminhall.com/oita-yamagata-turandot/>

グランドオペラ共同制作 『トウランドット』

国内の複数の劇場・団体により共同制作されたグランドオペラ公演。演出・振付は、現代社会への鋭い視点や卓越した空間構成、ダンサーが縦横無尽に舞う美しく壮大な演出・振付で世界的に評価の高いH・アール・カオ

スの大島早紀子。日本オペラ界を背負い立つソリストとスタッフが集結し、古代中国を舞台にした幻想的なステージをつくり出す。演奏は神奈川・大分公演が神奈川フィルハーモニー管弦楽団、山形公演は山形交響楽団。[日程・会場] 神奈川県民ホール: 10月17日、18日/iichiko総合文化センター: 10月24日/やまぎん県民ホール: 10月31日

●神奈川県横須賀市

横須賀芸術文化財団

〒238-0041 横須賀市本町3-27

Tel. 046-828-1602 大倉まゆみ

<https://www.yokosuka-arts.or.jp/>

能『隅田川』×ブリテン オペラ『カーリユー・リヴァー』連続上演“幻”(GEN)

横須賀芸術劇場の人気シリーズ「よこすか能」、「オペラ宅配便」に携わる観世喜正と彌勒忠史を演出に迎え、能『隅田川』とイギリスの現代音楽の巨匠ベンジャミン・ブリテンが『隅田川』に触発されて作曲したオペラ『カーリユー・リヴァー』の連続上演を行う。能舞台という同じ空間で、東洋と西洋、仏教(念仏)とキリスト教(讃美歌)といった対比を通し、根底に流れるテーマの共通性や、異文化の融合を表す。

[日程] 10月18日

[会場] よこすか芸術劇場

北陸・中部

●新潟市

秋葉区文化会館共同事業体

〒956-0033 新潟市秋葉区新栄町4-23

Tel. 0250-25-3301 荒井和真

<https://akiha-bunka.com>

アキハ・ミュージカル・プロジェクト「走れ!ロコモーション」

「鉄道のみち」として知られる秋葉区を舞台とした市民参加ミュージカル。脚本・演出の獄本あゆ美が市民に取材を重ね、オ

リジナルのストーリーを制作。国鉄C57形蒸気機関車(SL)を区内に保存することとなった1998年頃の地域と人々の様子を描く。小学生から大人まで42人がキャスト、コーラスとして参加。コロナ対策としてソーシャルディスタンスに配慮した座席配置を行い、計3公演を実施する。

[日程] 10月3日、4日

[会場] 秋葉区文化会館

●長野県長野市

長野県文化振興事業団

〒380-0928 長野市若里1-1-3

Tel. 026-223-2111 藤澤智徳

<https://www.geijyutsukantokudan.jp/>

長野県芸術監督団事業『そよ風と魔女たちとマクベスと』

2016年、長野県の文化創造活動の活発化を目的として、長野にゆかりのある芸術分野の専門家(串田和美、小林研一郎、本江邦夫、津村卓)から成る長野県芸術監督団を財団内に設置。魅力あるプログラムを企画・提言・実施している。今回は、県内劇場3館による初の共同製作作品として、『マクベス』を題材とした演劇を上演。まつもと市民芸術館の芸術監督でもある串田が脚色・演出・美術・照明・衣裳を手がける。

[日程・会場] 上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ): 10月2日～4日/まつもと市民芸術館: 8日～11日/茅野市民館: 17日、18日

●名古屋市

愛知県文化振興事業団

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5609 上林元子

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>

ダンス・セレクション
国内外で上演された作品から、当劇場のプロデューサー選りすぐりの2組が出演するダンス公

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

演。倉田翠率いるダンスユニットkakiliketo、ユニークな身体表現が魅力の柿崎麻莉子の秀作を、小ホールの特徴を活かした先駆的・実験的な作品を上演するシリーズ「ミニセレ」として上演する。公演翌日には、出演者を講師に迎えた関連ワークショップを開催。

[日程] 10月3日

[会場] 愛知県芸術劇場

●愛知県幸田町

幸田町文化振興協会

〒444-0103 額田郡幸田町大字大草字丸山60

Tel. 0564-63-1111 金澤大介

<https://www.happiness.kota.aichi.jp/hall/index.htm>

ハッピネス・ヒル・幸田～守ろう心 プロジェクトV～カルテット・スピリタス コンサート2020

3月以降、軒並み公演が中止となる状況で、少しでも心の拠り所となる舞台芸術を届けようと企画されたコンサートシリーズ。今回はクラシックをはじめポップスから現代音楽まで幅広いレパートリーをもつサクソフォン四重奏団カルテット・スピリタスが登場。「サクソ百面相～あなたが好きなのはどのスピリタス!?～」と題して、バラエティー豊かな演奏を披露する。来場者に向けてのアウトリーチ体験会も予定している。

[日程] 10月24日

[会場] 幸田町民会館つばきホール

近畿

●大阪府枚方市

枚方市文化生涯学習課

〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20

Tel. 072-841-1409 岡本・杉本

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000030342.html>

枚方市若手芸術家支援事業「アート・sprout WEB版」

新型コロナウイルスの感染拡大で活躍の場が失われている現状を踏まえ、枚方市アーティストバンクに登録している若手アーティストに参加を募り、発表の機会を提供する「アート・sprout WEB版」を枚方市公式YouTubeにて配信する。クラシック音楽から日本舞踊までさまざまなジャンルの動画を鑑賞できる。

[公開期間] 6月4日～

[URL] <https://www.youtube.com/user/hirakatacity>



アーティストの実演を収録し、動画を配信

●大阪府能勢町

淨りシアター

〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30

Tel. 072-734-3241 乾はるな

<https://www.jyoruri.jp/>

2020年能勢淨り月間 ONLINE

毎年6月に開催していた「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったことを受けて、過去の公演記録映像から計15演目をYouTubeで無料公開。演目は『能勢三番叟』等の能勢オリジナル演目のほか、『日高川入相花王』『義経千本桜』など人気の演目が並ぶ。

[公開期間] 7月18日～

[URL] <https://www.youtube.com/channel/UCkmdV5JjyD9oEfuCESiZs9A>

●兵庫県川西市

川西市文化・スポーツ振興財団

〒666-0015 川西市小花2-7-2

Tel. 072-740-1117 丹治亜弥子

<http://www.mitsunaka-bunka.jp/>

第29回みつなかオペラ

『満仲～美女丸の廻心』

川西市の音楽家を中心とした実行委員会形式で運営されているオペラ事業。上質で独自性をもつオペラ作品を楽しむことができる。1991年から毎年開催されており、29回目となる今年は、川西市に根付く民話「美女丸と幸寿丸」や謡曲『仲光』を基に2000年に制作・初演した創作オペラ『満仲～美女丸の廻心』を、初演から20年を経て、満を持して再演する。

[日程] 10月10日、11日

[会場] みつなかホール

中国・四国

●島根県浜田市

浜田市世界子ども美術館

〒697-0016 浜田市野原町859-1

Tel. 0855-23-8451 高野訓子

<http://www.hamada-kodomo-art.com/>

びじゅつのサマーキャンプ展

美術作品の中には、さまざまな教科と結びつく要素がちりばめられていることに注目し、各教科に結びつく体験型作品を紹介しながら、子どもたちの好奇心を刺激し、学びの意欲を引き出す斬新な展覧会。来館者には週替わりで作品にちなんだ宿題が与えられ、自分なりの発想で表現することの大切さを問いかける。新型コロナ感染拡大防止対策として、日時指定(8区分の時間枠)の完全予約制(1区分3組まで)で開催される。

[日程] 7月23日～10月4日

[会場] 浜田市世界子ども美術館

●岡山市

岡山市文化振興課

〒700-8544 岡山市北区大供1-1-1

Tel. 086-803-1054 山根俊輔

<http://okayama-sc.jp/oimf/2020/>

おかやま国際音楽祭2020

「支えあう・響きあう・一つにな

る」をキャッチコピーとした秋の岡山を彩る音楽の祭典。地元のアマチュアの演奏家から誰もが知る有名アーティストまで、あらゆるジャンルのコンサートが野外、街角、ホールなど市内各所で開催される。新型コロナウイルスの感染対策に配慮し、会場は入場者を制限する。また、初の試みとしてステージの模様をオンライン配信する。

[日程] 9月26日～10月31日

[会場] JR岡山駅前周辺、西川緑道公園、表町商店街、岡山シンフォニーホールほか市内各所

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121 岩本史緒

<https://www.hiroshima-moca.jp/>

特集「肖像(わたし)」+コレクション・ハイライト

本展は、前半の特集展示「肖像(わたし)」と後半の「コレクション・ハイライト」の2部構成。前半部分では、現代美術における肖像表現を取り上げ、アイデンティティの曖昧さと不確実な「わたし」について問いかける。後半は、被爆75年という節目の年に、被爆都市・広島美術館としてこれまで当館が収集してきた作品から「ヒロシマ」の惨禍と復興の軌跡、平和への希求を読み解く。

[日程] 8月6日～11月29日

[会場] 広島市現代美術館

●広島県廿日市市

はつかいち文化ホールウッドワン さくらびあ

〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1

Tel. 0829-20-0111 豊川智恵

<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapiaevent/20200601eizoproject/>

さくらびあ音楽の力配信プロジェクト～ふるさとの唱歌～

3月以降の主催公演が延期・中止になったことを受け、新たに「さくらびあYouTubeチャンネル」を作成し、動画配信プロジェクトを実施。毎年10月に開催している市民参加型イベント「はつかいち平和コンサート」(2020年は10月18日開催予定)で演奏される「春が来た～ふるさとの唱歌」の12曲を当ホールゆかりの奏者・アーティストたちが披露する。
[公開期間]6月1日～
[URL]<https://www.youtube.com/channel/UCz2YPLwDGvecNISZFUk52AA>

●広島県呉市

呉信用金庫ホールオープンデイ実行委員会
〒737-0051 呉市中央3-10-1
Tel. 0823-25-7878 岡野・塩谷
<https://www.kure-bunka.jp/>

呉信用金庫ホールオープンデイVol.1～音楽を楽しんでKURE2020～

親子で1日音楽に親しむイベント。1日館長に米良美一を迎え、前半は未就学児童から中学生まで、子どもの年齢に合わせた複数のコンサートやバックステージ体験、楽器づくり体験など。後半はご当地キャラクターの呉氏と子どもたちのダンス発表や、呉市文化振興財団登録アーティストによるリレー演奏、呉少年合唱団と米良の共演など、老若男女を問わずみんなで楽しめるプログラムを予定している。コロナウイルス感染症対策のため事前応募制で、応募者多数の場合は抽選。

[日程]10月18日

[会場]呉信用金庫ホール(呉市文化ホール)

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内

Tel. 088-668-1088 吉川神津夫
<https://art.tokushima-ec.ed.jp/>

徳島のコレクション 2020年度第2期 開館30周年記念 未来に向けて

開館30周年を記念し、美術館のこれまでの歩みを3つのテーマで紹介。「20世紀の人間像」では、当館の収集方針のひとつでもあり、20世紀に興った新しい表現であるキュビズムや抽象的な絵画を中心に作品を展示。「特集」では3期に分けて当館のコレクションを紹介。「近代美術館クロニクル」では、これまでの展覧会を図録や記事で振り返る。

[日程]7月18日～11月29日

[会場]徳島県立近代美術館



ジャン・メッツアンジェ(自転車乗り)(1911～12年/油彩、砂、コラーージュ キャンバス)

●香川県高松市

高松市文化芸術財団
〒760-0019 高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー ホール棟2F

Tel. 087-825-5010 玉井直子
<https://www.sunport-hall.jp/>

瀬戸フィルティータイムコンサート ハロウィンスペシャル

ホールをハロウィン仕様に変更し、テーブル席でゆったりと親子で鑑賞できるコンサート。「ディスイズハロウィン」「ハリポッターメドレー」「オペラ座の怪人」など、ハロウィンに合わせた楽しい曲や少し怖い曲など、子どもも大人も楽しめるプログラムで、仮装して参加することもできる。ソーシャルディスタンスの確

保のため、入場は各回約60席に限定。

[日程]10月24日

[会場]サンポートホール高松

●愛媛県松山市

愛媛県美術館
〒790-0007 松山市堀之内
Tel. 089-932-0010 杉山・長井・高木
<https://www.ehime-art.jp/>

1970⇔2020 未来へ 愛媛県立美術館設立50周年記念展

前身である愛媛県立美術館開館から50年目を迎えることを記念して開催する特別展。「愛媛野外美術展」や「郷土作家展」などに出品した作家による多種多様な作品や、初期コレクションを取り上げ、改めて当時の活発な愛媛の美術を全国へと発信、過去から現在へと引き継いできた遺産を継承し、未来への発展を目指す。

[日程]9月1日～11月6日

[会場]愛媛県美術館

九州・沖縄

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ
〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

Tel. 0942-36-3000 森永南海子
<https://kurumecityplaza.jp/>

音楽と絵が織りなす「展覧会の絵コンサート」

子どもの感性・創造力を育てる事業「久留米シティプラザ キッズプログラム」。ピアニスト・指揮者である中川賢一の繊細でやさしく力強い迫力の音楽と、9月21日、22日のワークショップで子どもたちが自由な発想で描いた個性的な絵が合わせ「音楽と絵の化学反応」が楽しめる。曲目は、『月の光 ピアニストのためのコロナ』『展覧会の絵』などを予定。

[日程]10月25日

[会場]久留米シティプラザ

●鹿児島県霧島市

鹿児島県文化振興財団
〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29
Tel. 0995-78-8000 西村彬
<https://miyama-conseru.or.jp/>

野外音楽フェス～みやまの森の響き～今年は親子でJAZZ! JAZZ!! JAZZ!!!

鹿児島県内で活躍している音楽団体を広く紹介するとともに、出演団体相互の交流を深めることを目的として、毎年開催しているコンサート。今年は、アニメや映画、童謡、唱歌、クラシックなど、老若男女を問わず楽しめるレパートリーをジャズ・アレンジで作品化し、0歳児からのコンサートなどで注目を集めるKazumi Tateishi Trioを特別ゲストに迎える。

[日程]10月18日(荒天時は中止)

[会場]霧島国際音楽ホール野外音楽堂

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel. 098-941-8200 大城さゆり
https://okimu.jp/art_museum/

沖縄の美術シリーズⅧ 稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。

沖縄県那覇市(旧・真和志村)生まれの画家・稲嶺成祚(いなみね・せいそ)の企画展。子どもが描く記号的な絵でも、意味が伝わることに絵画の根源と可能性を見出した彼は、「何を描くかも大事だが、どのように描くかのほうに、より重大なメッセージが入る」と語る。60年を超える画業の中で1,600点以上の絵を描いてきた画家の変遷をたどる、作品94点を紹介する。

[日程]9月18日～11月3日

[会場]沖縄県立博物館・美術館

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●栃木県那須塩原市

まちなか交流センター「くるる」

〒325-0056 那須塩原市本町6-32

Tel. 0287-73-5597

<https://www.city.nasushiobara.lg.jp/22/kouryuu/4489.html>

◎2019年7月20日オープン



人口減少が見込まれるなか、便利で快適な持続可能な都市づくりを目指して再生整備が進む黒磯駅周辺地区に、新たな交流拠点として開館。地域団体や市民との対話を重ね、「人と食を育む交流の家」をコンセプトに、地域の人々が主体的に関わり交流できる空間を整備。

ガラス張りで解放感のある施設には、地元食材のマルシェなどに活用できる屋内外の広場を中心に、フードコートやキッチンスタジオのほか、工作室や和室、音楽室などの活動スペースとステージ、ギャラリーが配置され、地域の食文化の発信や市民の文化芸術活動の活性化を図る。各施設は名称にかかわらず自由な用途で使用でき、営利目的以外なら誰でも無料で借りられるため、集まる人々次第で多様な活用が可能。開催するイベントについては、地域団体や市民で構成される利用者会で検討しながら、官民一体となった運営を目指す。

[オープニング事業]音楽ステージ(思い出のメロディ)ほか

[施設概要]屋外広場(1,500m²)、屋内広場(100m²)、工作室(65m²)、ステージ(38m²)ほか

[設置・管理・運営者]那須塩原市
[設計者]フジワラテッペイアーキテクツラボ

●神奈川県藤沢市

藤沢公民館・労働会館等複合施設(Fプレイス)

〒251-0053 藤沢市本町1-12-17

Tel. 0466-26-7811

<https://www.fujisawa-fplace.com/>

◎2019年4月1日オープン



老朽化した藤沢公民館、労働会館を複合化し、藤沢市民図書室、藤沢西部地域包括支援センター、地域生活支援センター、藤沢西部地区ボランティアセンター、藤沢子どもの家、放課後児童クラブ、生涯学習活動推進室などの行政機能を集約させ、労働会館跡地に開館。

地上6階建ての施設は、3階から6階が吹き抜けの開放的な空間で、300人が収容できる舞台・ホールや多目的室、多目的交流ホール(体育館)、会議室、多世代間交流スペースなどさまざまな施設を整備。災害時には防災拠点の役割を果たし、「生涯学習の活動の場」「就労支援」「地域福祉に関する相談受付」「子どもの健全育成」といった機能を備えている。

市民の暮らしや生涯学習などをサポートし、多世代間の交流を促進する地域の拠点となることが期待されている。

[施設概要]舞台・ホール(300席)、多目的室1・2、多目的交流ホール(体育館)、図書室ほか

[設置者]藤沢市

[管理・運営者]相鉄・チームふじさわ共同企業体

[設計者]基本設計:昭和設計/実施設計:梓設計、鹿島建設

●愛知県

愛知芸術文化センター

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5511

<https://www.aac.pref.aichi.jp/>

◎2019年4月2日リニューアルオープン



名古屋市の中心部栄地区に建ち、地上12階・地下5階の建物内に3つのホールと美術館、貸ギャラリーや情報センター、アートライブラリーなどがある複合文化施設として1992年に開館した同センターが、約3年の歳月をかけ、天井脱落対策、舞台機構、音響・照明設備、自動火災報知設備、空調設備の更新などの改修工事を完了し、リニューアルオープン。

今後は、芸術創造機能を一段と強化し、質の高い舞台芸術や美術展等を継続開催するとともに、複合機能を活かした分野横断的な芸術や、豊富な経験を活かした先端的な芸術を創造、展開していく。また、同センターの拠点性や情報発信力を高め、企画・制作機能を一層強化し、鑑賞者層の充実・拡大に繋げていく。

[施設概要]愛知県美術館:企画展示室(3室1,480m²)、所蔵作品展示室(5室1,400m²)、ギャラリー展示室(10室3,113m²)/愛知県芸術劇場:大ホール(2,480席)、コンサートホール(1,800席)、小ホール(330席)ほか

[設置者]愛知県

[管理・運営者]愛知県文化振興事業団(愛知県美術館、アートライブラリーを除く)

[設計者]A&T建築研究所

イベント開催制限で広がるオンライン配信事業

制作基礎知識シリーズ Vol.46

オンライン配信の基礎

講師 山名尚志
(株式会社文化科学研究所代表)

新型コロナウイルスが文化芸術の興行市場にもたらした傷跡は極めて大きい。2020年9月19日からはイベントの人数制限が一部緩和されたものの、未だ正常化とはほど遠い状況である。また、多くの文化芸術団体では、興行再開どころか、来年度以降の計画すら立てられない状況にある。そのなかで、ウィズ・コロナ、アフター・コロナに対する新たな可能性として注目されているのがオンライン配信である。今回は公立ホール・劇場でも行われるようになったオンライン配信について簡単に見ていきたい。

●コロナ対応で変わったオンライン配信のあり方

ここで言うオンライン配信とは、コンサートやスポーツの試合などを、インターネットの動画配信技術を用いて、直接家庭・個人の端末に届ける手法のことを指す。オンライン配信が市場として大きく着目されるきっかけとなったもののひとつが、2020年6月25日に横浜アリーナを舞台に実施されたサザンオールスターズの無観客コンサートである。このコンサートは、8つの動画配信サービスを通じて配信され、視聴チケット(3,600円)の購入者は計18万人に上った。世界的にはより大規模な配信コンサートも実施されており、例えば、K-POPグループであるBTSは、同年6月14日に無観客コンサートを有料配信し、107カ国から75万人同時アクセスを達成した。

これまでも、YouTubeをはじめとして、オンライン配信のプラットフォームは多数提供されてきた。今回それまでと大きく状況が異なるのは、ぴあやイープラス、ローチケなどの大手チケット販売会社が、興行主催者に対するサービスとして、本格的にオンライン配信のサービスを提供し始めたことである。また同時に、ZAIKOなどの電子チケットやオンライン配信のシステムを提供してきた企業も、オンライン配信のチケット販売代行の事業を拡大するようになってきた。

このことにより、興行主催者は、自社でシス

テムを構築したり借りたりすることなく、通常の興行でチケット販売業者にチケット流通を依頼するのとあまり変わらない手間で、ライブの有料オンライン配信を行うことができるようになった。結果、無観客や少数の観客でコンサートや舞台を実施し、同時に有料オンライン配信を行うという動きが、コロナ禍への対応として急激に拡大してきている。

●オンライン配信の仕組み

オンライン配信がどのように行われているのかを、ぴあの「PIA LIVE STREAM」を例に説明する。ぴあでは、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた2月より準備を始め、5月1日にオンライン配信のサービス開始をプレスリリース、5月30日から実際に配信をスタートしている。8月末までにぴあが取り扱ったオンライン配信の公演数は約1,000本に及んでいる。

オンライン配信の仕組みを簡単に説明したものが右図である。まず放送や録画にも使う通常のマイク、カメラ、ミキサー/スイッチャー等の映像用の機器・設備とそれを操作するスタッフが必要になる。ミキサー/スイッチャーで調整された映像は、次に、エンコーダーに送られ、インターネット用にデジタルデータ化(=エンコーディング)される。その後、インターネット経由で、ストリーミングサーバなどの動画配信用のシステムに送られ、そこから実際の配信が行われることになる。近年大きく進化したのが、最後の動画配信用のシステムの一般ユーザへの配信に関わる部分である。CDN(Content Delivery Network)と呼ばれるこのシステムが発展したことで、ハイビジョンや4K画質の映像を、数万、数十万という単位で、極めて安価に、同時配信することが可能となった。

ぴあ等の大手チケット販売会社では、動画配信会社と連携し、チケット自体の販売やプロモーションだけでなく、上記の流れすべてについての作業を受託できる体制を構築している。例えば、会場に撮影機材やミキサー/スイッチャー等がなくても映像オペレーターごと提

供してくれるし、エンコーダーも設置してもらえ
る。また、配信に当たっては会場にブロードバ
ンド回線が必要となるが、十分な回線がない
場合の別回線提供(有料)もサービスに含まれ
ている。実際には条件やサービス内容に合わ
せた見積もりとなるが、サービス提供料はかな
り低い額に抑えられている。

もちろん、チケット販売会社に業務を委託
する以外にもオンライン配信の選択肢は多く
ある。自前で撮影やエンコード、インターネット
へのアップロードができるのであれば、動画配
信システムだけを借りればいいし、動画配信と
主催者による自前でのチケット販売のシステ
ムを組み合わせたサービスを提供している企業
もある。自館、自団体の設備や人材の状況に
合わせ、適宜、必要なサービスを受けること
が可能である。

オンライン配信でもうひとつ便利なのが、リ
アルタイムでの配信後、一定期間は見逃し視聴
ができる仕様となっていることだ。開演時間
間に合わなくても、オンライン配信なら、心配
なくコンサートや舞台を楽しむことができる。

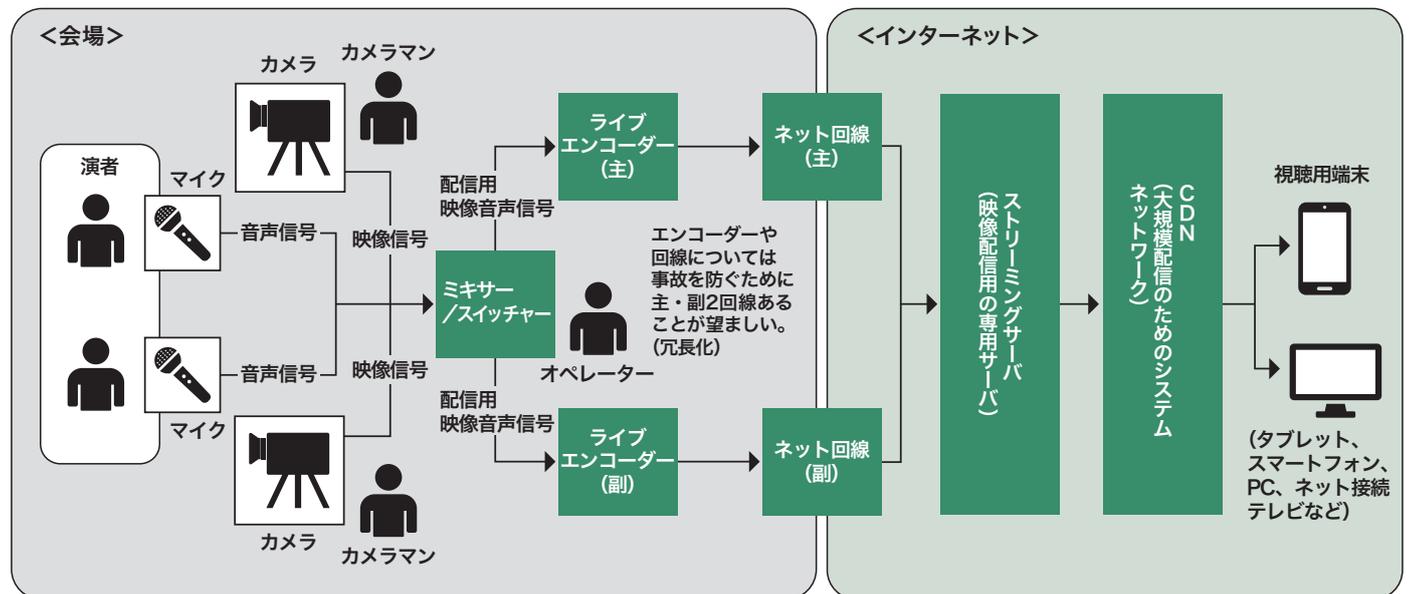
●今後に向けて

現在のオンライン配信は、あくまでコロナ禍
への対応という視点が中心であり、オンライ
ン化自体が主目的ではない。しかし、会場の観
客だけではなく、インターネット上でも観客を
確保することができるオンラインは配信が、も
うひとつの興行収入となる可能性がある。こ
れは、公立ホール・劇場の主催事業の運営に
おいても、決して無視できない観点である。

もちろん、すべての公演がオンライン配信に
向いているわけではないだろうし、“生”の魅
力がなくなるわけでもない。だが、一部であ
っても、オンライン配信によって潜在的な観客
を掘り起こすことができるなら、あるいは会
場に行くことに困難がある人に鑑賞機会を
与えることに繋がっていくのなら、主催事
業の収支も、意義も、拡大させていくこと
ができる。

設備の見直し、専門スタッフの必要性など
の課題もあるが、オンライン配信は、公立
ホール・劇場の今後に大きく関わってくる
重要なテーマなのである。

オンライン配信の流れ(PIA LIVE STREAMを参考に作成)



▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール びわ湖ホール声楽アンサンブル 「美しい日本の歌」



「美しい日本の歌」
写真提供：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」

【主催】滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
【日程】2020年8月10日

【会場】滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール

【出演】本山秀毅（指揮）、びわ湖ホール声楽アンサンブル（独唱・合唱・司会）、京都フィルハーモニー室内合奏団（管弦楽）

*YouTube配信

6月11日に最初の収録を行い、18日以降毎週木曜日にオペラの名場面を抜粋した動画を配信。

●テレコーラス・プロジェクト

合唱のための新しいオンラインコミュニティとして、クラウドファンディングによって資金を募り、2020年5月に本山秀毅と高内章が共同で立ち上げたプロジェクト。テレコーラス・フェスティバル（テレフェス）とテレコーラス・コンクール（テレコン）の2部門で、参加費は無料。テレフェスでは課題曲（小田美樹作曲『群青』）の伴奏音源と指揮映像に合わせて歌った動画を撮影して投稿。約1カ月半で集まった158ファイル、200人を超える歌声を大合唱に編集してYouTubeチャンネルで公開。テレコンは集まって合唱できない状況でZoomなどを使って多重録音してつづいた合唱動画の品評会。国内外からプロ

ジェクトのホームページに投稿された動画は計110本で、審査員や聴衆がコメントを書き込むことができる。8月10日にYouTubeで配信された第1回テレコーラス・アワードではグランプリ、審査員賞に加えて聴衆が選ぶ3賞（音楽性部門、エンタメ部門、とにかく好き！部門）を発表。本山さんは、「コンクールと称しているが、競い合うことが主要な目的ではない。映像を撮影することで自分が歌う際の表情に向き合う機会にもなり、このプロジェクトを通して多くの気づきを得た。テレコーラスには新たな価値観として成長できる可能性を感じている」と言い、年内を目処に2回目の開催を予定。

集団で発声するため、新型コロナウイルス感染症のリスクが高いとして大きな影響を受けている合唱や声楽。全日本合唱連盟（JCA）だけでも4,470団体が加盟するなど、子どもから高齢者まで幅広い市民が参加できる合唱は、公立ホールの事業としても定番。6月29日にはJCAが感染症拡大防止のガイドラインを発表するも、活動再開に苦慮する状況が続いている。

公立ホールでは、7月23日、24日に兵庫県立芸術文化センターがオーケストラと合唱団が一緒に演奏する「どんな時も歌、歌、歌！～佐渡裕のオペラで会いましょう」を開催。感染予防のための取り組みを詳細な報告書として発表した。また、劇場専属の声楽アンサンブルを擁するびわ湖ホールは、7月26日に合唱公演を再開。今回のレポートでは8月10日に行った声楽アンサンブルと京都フィルハーモニー室内合奏団による「美しい日本の歌」の模様などを紹介する。

コンサートは童謡や四季を彩る唱歌によって構成された前半と、声楽家が個性豊かに昭和・平成のヒット曲を歌う後半の2部構成。1,848人収容の大ホールは定員700人に制限されていたが、満場の来場客は普段聴く機会のないポップスを歌う声楽アンサンブルメンバーに盛大な拍手を送っていた。

歌手からの飛沫感染予防の観点から、通常は舞台前方に位置する管弦楽団を舞台奥に移動。客席最前列から8メートル離れた所にソーシャルディスタンスをとった歌手、中央に指揮

者、奥に管弦楽団というイレギュラーな配置だった。歌声と管弦楽の音量バランスを整えるため、歌手の前にはマイク、舞台の至る所に返しのスピーカーが設置され、最前列の歌手は指揮者が見えにくいためモニター越しのパフォーマンス。プロデュースオペラを制作できるテクニカルスタッフが常駐するびわ湖ホールだからできた対応だった。

指揮の本山秀毅さん（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者）は、「コロナと付き合っていくためには、いつまでも沈黙しているわけにはいかない。演奏者とのコンタクトが難しい配置だったが、慣れればいつもより集中することができた。今のような状況で合唱関係者には、それぞれの人にとって歌うことがどういう意味を持つかが改めて問われていると思う。私は合唱活動の再開に向けた取り組みと並行して、仲間と一緒にオンラインで合唱を行うテレコーラス・プロジェクトを立ち上げた。本来合唱は同じ場所に集まり、同じ時間を共有して成立するものだが、その機会が奪われてしまった辛い状況だからこそ、合唱に関わる人たちの目標になるものを提供したかった」と言う。

また、びわ湖ホール総括プロデューサーの館脇昭さん言う。「5月中はアンサンブルメンバーも自宅勤務となり、例年行っている学校公演も中止になった。職員から提案があり、ホールホワイエでのYouTube配信(*)と県内の小学校を対象とした校歌の音源贈呈プロジェクトを行うことにした。これには現時点で220校中163校から応募があり、6月23日に最初の収録を行った。校歌に加えて『江州音頭』と『琵琶湖周航の歌』を収録（沼尻竜典芸術監督指揮）したCDを作成し、7月22日からプレゼントを開始した。専属の声楽アンサンブルがいてくれるお陰で、このように高い機動力を発揮できたと実感している。びわ湖ホールでは今年度予定していた18のオペラ公演のうち12が中止になった。これまでのプロデュースオペラのリハーサルは出演者が多く居住する東京で行っていたが、これからはびわ湖で稽古する地産地消型の制作に切り替えることも考えていかなければと思っている」（横堀応彦）